

高知支部のジェネリック医薬品に係る 分析資料について(令和3年3月作成)



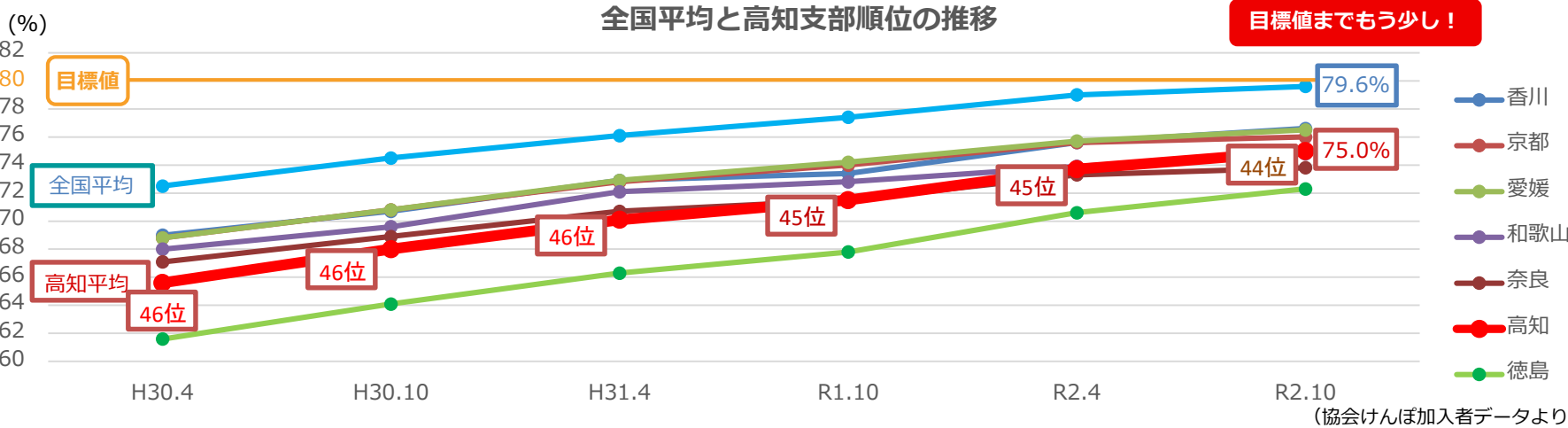
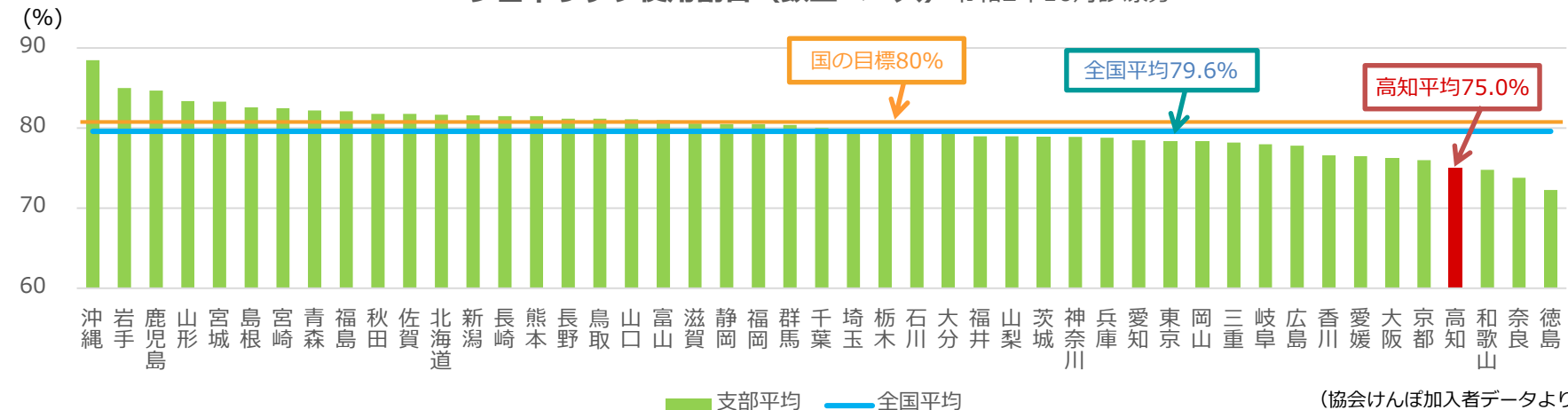
全国健康保険協会 高知支部
協会けんぽ

本資料のデータについて

- 注1. 協会けんぽ（一般分）の内科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計したものである。（ただし、電子レセプトに限る。）
なお、DPCレセプトについては、直接の診療報酬請求の対象としていないコーディングデータを集計対象としている。
※資料4～資料6については、歯科レセプト集計対象外。
- 注2. 加入者の適用されている事業所所在地の都道府県毎に集計したものである。
※資料4～資料6については、医療機関の所在地の都道府県毎に集計したデータ。
- 注3. 「新指標による後発医薬品使用割合（数量ベース）」は、
$$\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}])}$$
で算出している。医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」に基づいて設定している。
- 注4. 「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう。ただし、経腸成分栄養剤、特殊ミルク製剤、生薬、漢方を除く。
- 注5. 薬効分類は、「日本標準商品分類」の「中分類87-医薬品及び関連製品」に準拠して設定している。
- 注6. 医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」による。
- 注7. 年齢は、実際の診療年月末日時点である。
- 注8. 社会保険診療報酬支払基金から請求のあったレセプト（再審査分を除く）を集計対象とし、請求月の前々月を診療年月として表示している。（例えば、令和2年4月診療で集計対象としているのは、令和2年6月に社会保険診療報酬支払基金から請求のあったレセプトである。）

1. 全国平均と比較した高知支部のジェネリック医薬品の使用割合について（数量ベース）

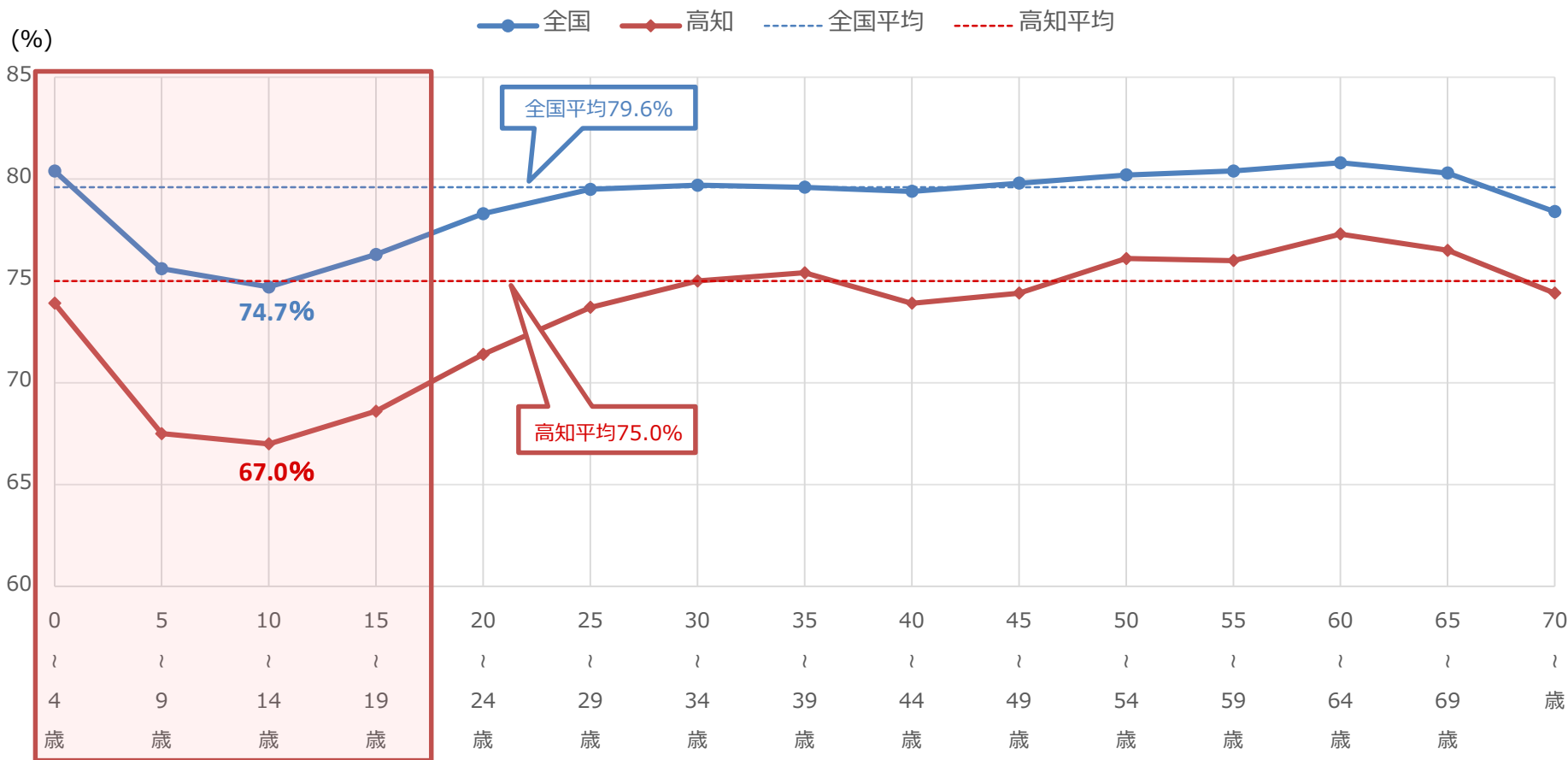
ジェネリック使用割合（数量ベース） 令和2年10月診療分



全国平均・高知平均の使用割合は、着実に伸びてきています。全国平均は目標の80%までもう少しです。
高知支部も当初より少しずつ順位を上げてきています。

2. 年齢区分別ジェネリック医薬品使用割合の全国平均との比較について（数量ベース）

年齢区分別ジェネリック使用割合（令和2年10月診療分）

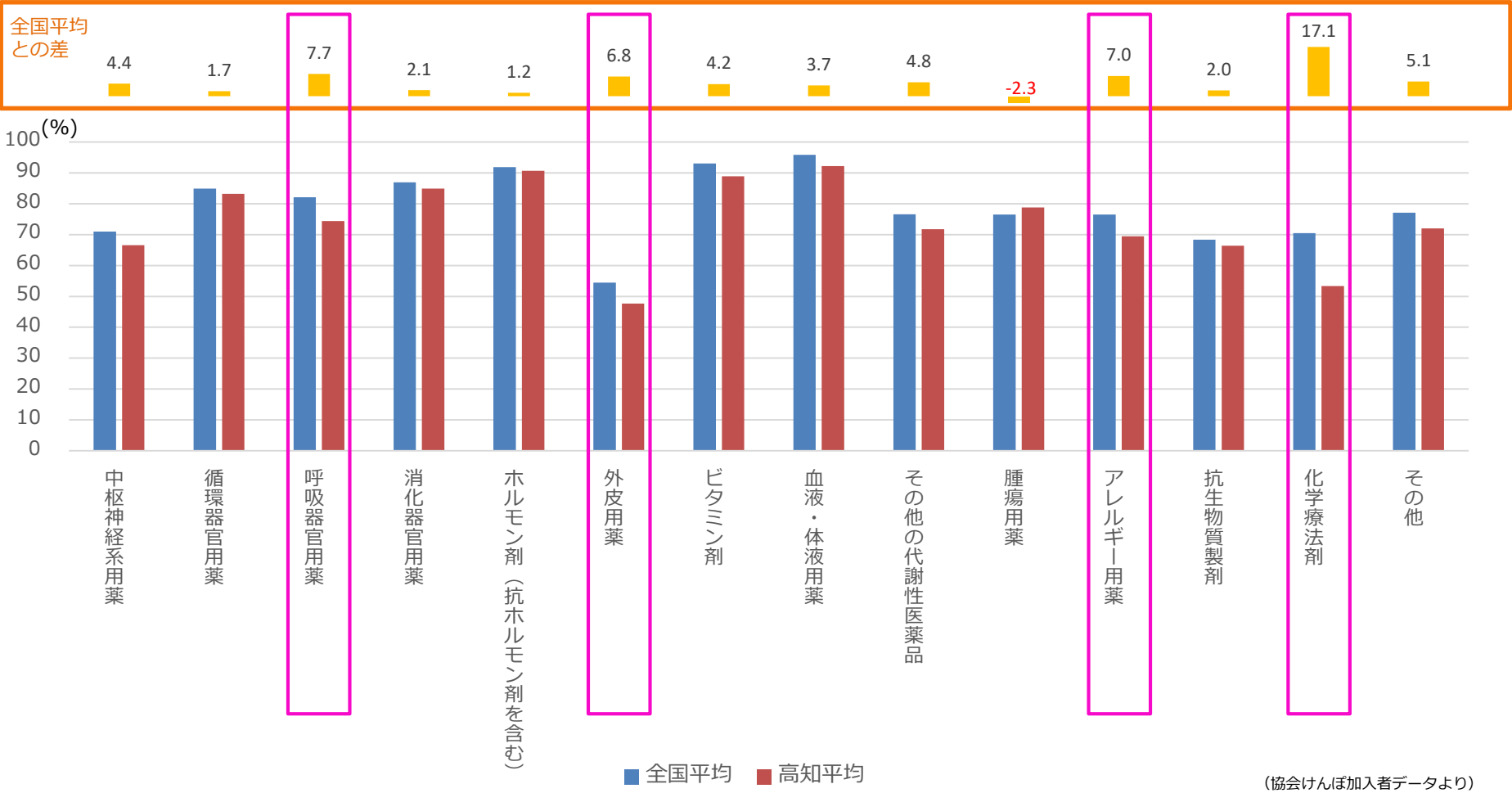


（協会けんぽ加入者データより）

全国と比較して高知支部は、**特に0～19歳の若年層の使用率が低い**傾向があります。医療費の高い都道府県は、保険料率も高くなる仕組みとなっていますので、皆さまにご負担いただいている保険料に影響が出てくる可能性があります。助成制度などで自己負担がない方についても可能な限りご協力をお願いします。

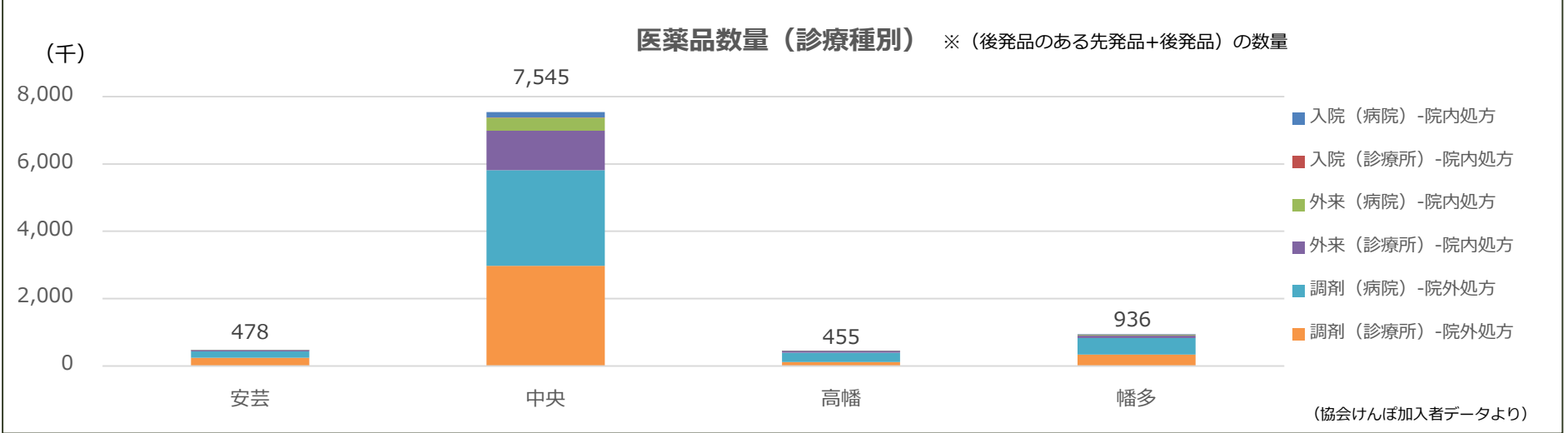
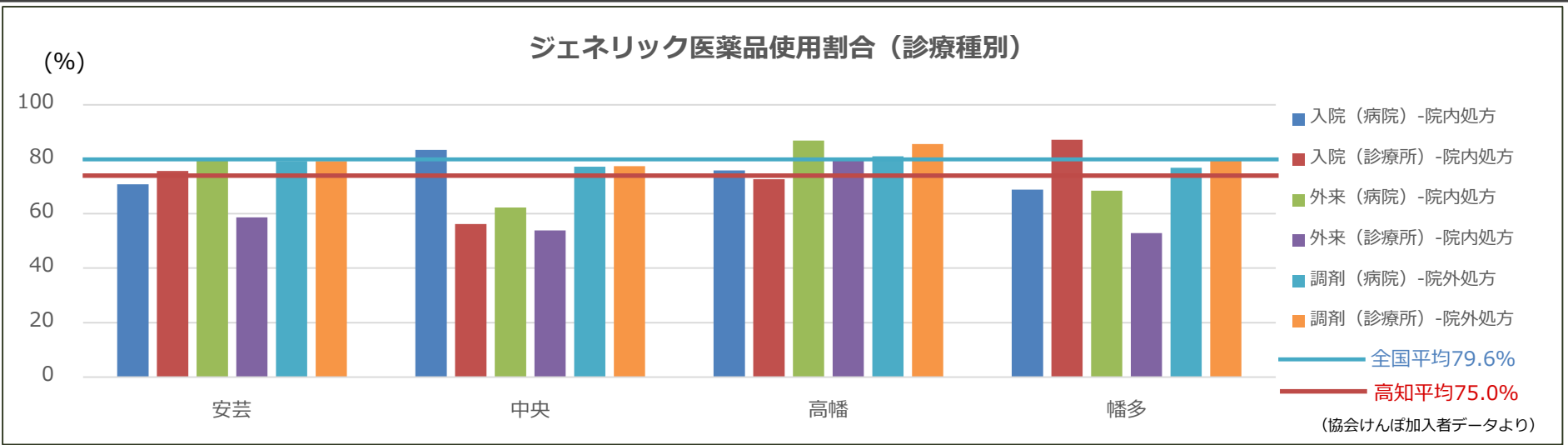
3. 薬効分類別ジェネリック医薬品使用割合の全国平均との比較について（数量ベース）

主な薬効分類別 ジェネリック医薬品使用状況（令和2年10月診療分）



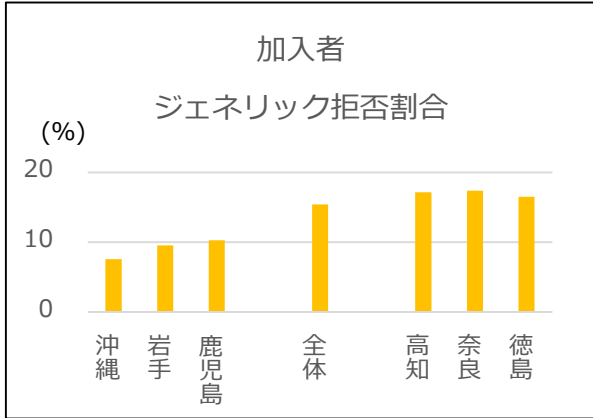
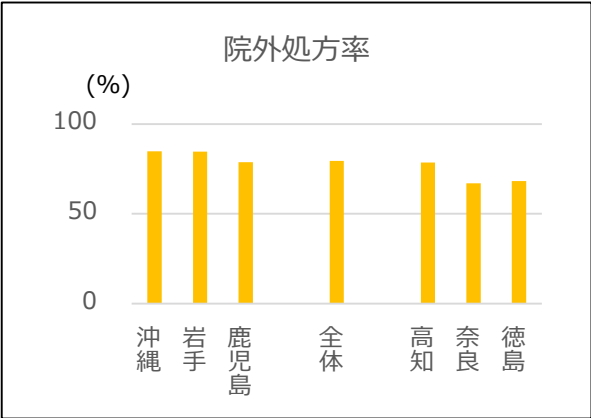
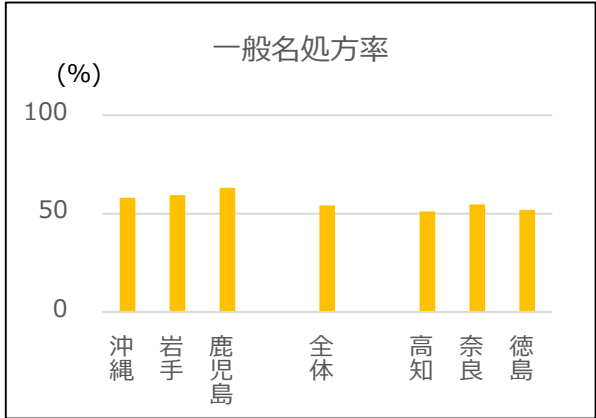
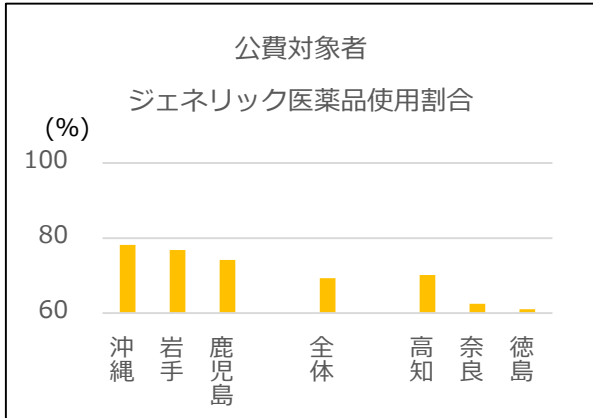
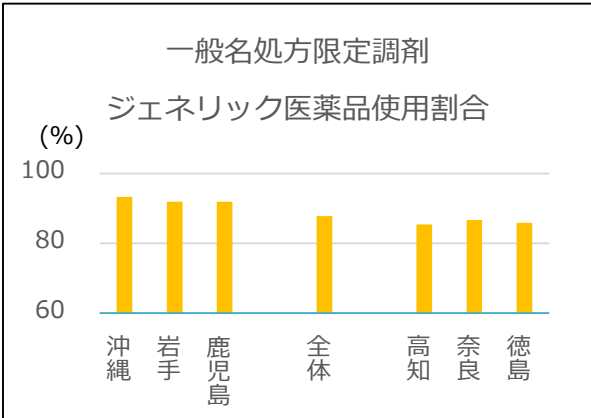
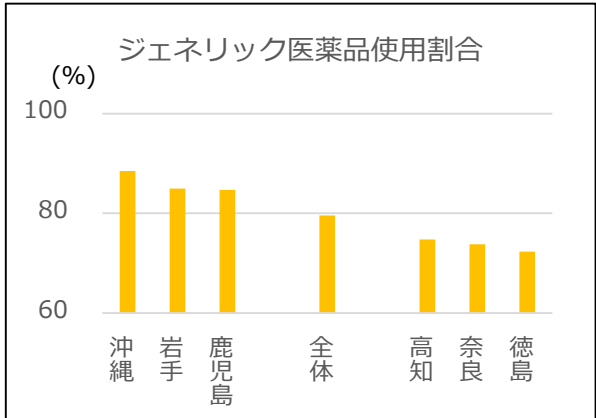
薬効分類別では、全国的に外用薬の使用割合が最も低くなっています。
全国の使用割合と比較すると高知支部は、化学療法剤、呼吸器官用薬、アレルギー用品、外用薬の使用率が特に低くなっています。

4. 地区（二次医療圏）別のジェネリック医薬品の数量と使用割合について（令和2年10月診療分）



地区別の使用割合では、各地区で診療種別ごとに使用割合に大きな差が見られます。次に医薬品数量で見てみると、各地区で調剤薬局（病院）、調剤薬局（診療所）の数量が多く、次に外来（診療所）、外来（病院）の数量が多くなっています。しかしながら、高知県は、中央地区の数量が全体の約8割と大部分を占めており、中央地区の傾向が全体へ大きな影響を及ぼす特徴があります。中央地区では、「外来（診療所）院内処方」、「入院（診療所）院内処方」、「外来（病院）院内処方」の使用割合が平均より特に低くなっています。

5. 使用割合が高い支部（3支部）と低い支部（3支部）の比較（令和2年10月診療分）

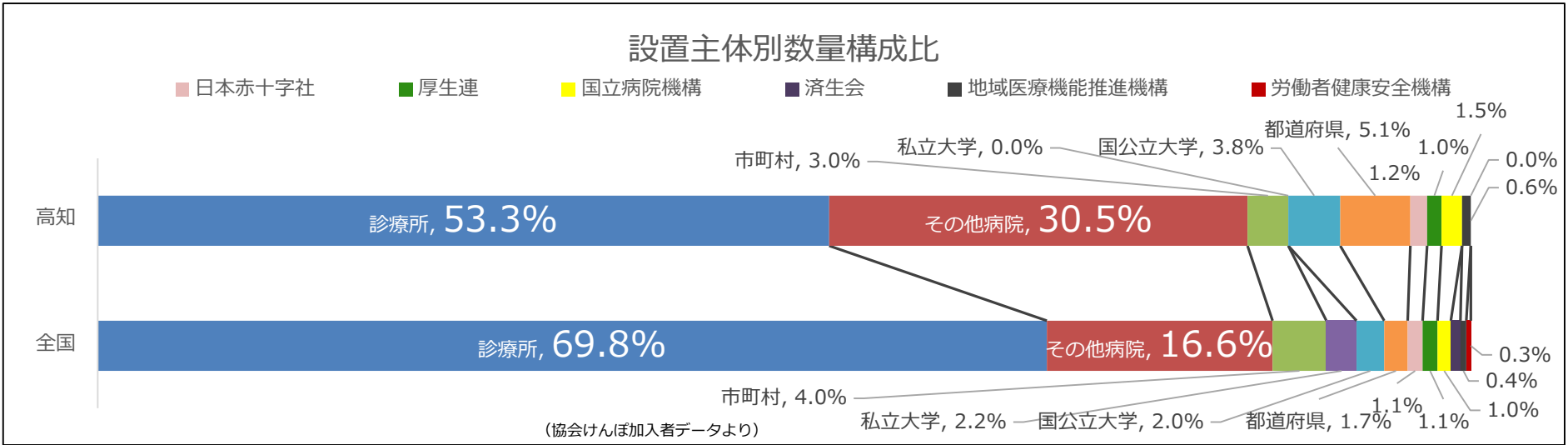
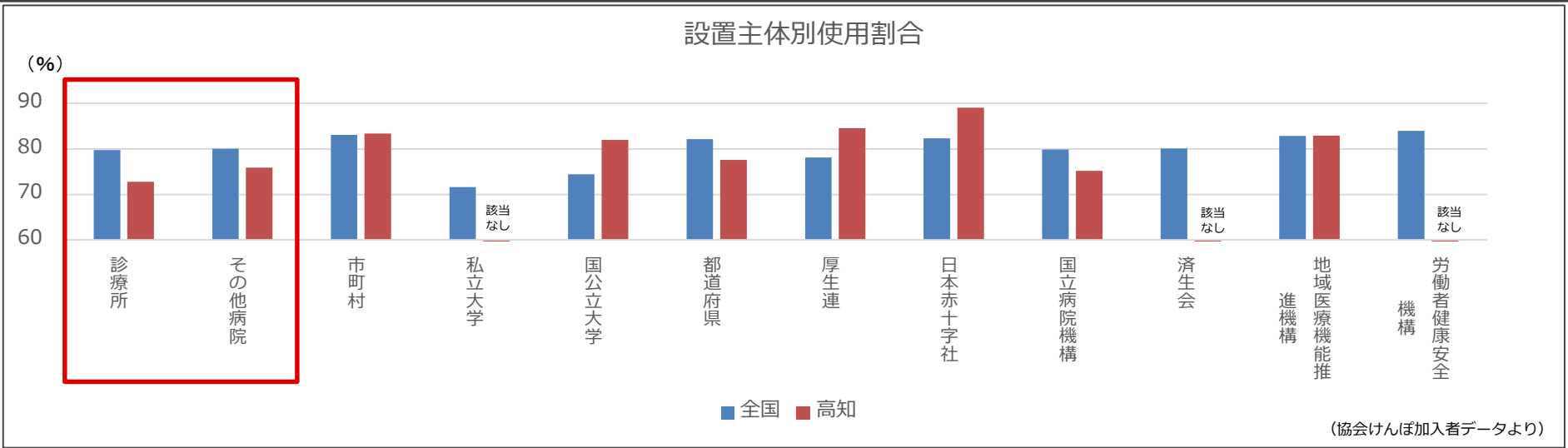


- ・地域別の集計は、医療機関および薬局の所在地に基づく。
- ・実質一般名処方率として、一般名処方加算にヒモ付くレセプト数に基づいて算出している。
(一般名処方加算1または2が存在する医科レセプトに、支部、記号、番号、性別、生年月日がヒモ付く調剤レセプトの数) / (調剤レセプトの数)
- ・一般名処方加算1が存在する医科レセプトに、支部、記号、番号、性別、生年月日がヒモ付く調剤レセプトのみを集計対象とする。※歯科レセプトは対象外
- ・(調剤レセプトの加入者の都合で後発品を調剤しなかったコメントレコードのあるレセプト数)
/ (一般名処方加算が存在する医科レセプトに、支部、記号、番号、性別、生年月日がヒモ付く調剤レセプト数)
- ・国公費の記載のあるレセプトを集計対象とする。(地方単独公費のみのレセプトは集計対象外※子供医療など)

(協会けんぽ加入者データより)

- ①全体的に一般名処方がされている場合は、ジェネリック医薬品の選択率が高くなっています。
- ②全体的に公費対象レセプトの場合は、ジェネリック医薬品の選択率が低くなっています。
- ③使用割合が高い支部と低い支部を比較した場合、使用割合が低い支部は、院外処方率が低く、患者拒否割合が高い傾向があります。

6. 設置主体別の使用割合と構成比（令和2年10月診療分）



高知支部は、設置主体が「国公立大学」「厚生連」「日本赤十字社」では、使用割合が全国平均を上回っていますが、全体の8割以上の数量を占める「診療所」と「その他病院」が全国平均を下回っているため、全体としての使用割合も低くなっていることがわかります。したがって、大病院よりも個人病院の影響力が大きいと言えます。

7. ジェネリック医薬品軽減額通知の送付事業について

ジェネリック医薬品軽減額通知 年度別効果実績一覧

【軽減通知イメージ】

ジェネリック医薬品を使ってみませんか？

あなたに処方されたお薬をジェネリック医薬品に変更した際の軽減額を裏面に記載しています。

＜裏面のお知らせの見方＞

見本

ジェネリック医薬品をお使いいただくと、あなたのお薬代を減らすことができます。

1 平成31年 4月 1日付けで処方されたお薬（先発医薬品）
2 お薬代の軽減可能額
3 お薬名
4 お薬代
5 注意事項

具体的なジェネリック医薬品の名前が書いていないのはなぜ？

A. 1つの先発医薬品に対し、複数のジェネリック医薬品が存在する場合があります。この「お知らせ」には、具体的なジェネリック医薬品名を記載していません。具体的なお薬については、かかりつけの医療機関または薬局でご相談ください。

全国健康保険協会 協会けんぽ

1 はじめてのジェネリック

2 お薬代が、ぐっと少額になります

3 ぐうてびとれいろうが、あなたの健康にいいから

【同封リーフレットイメージ】

協会けんぽ 高知支部 の合計								
	一回目通知				二回目通知			
	通知件数	切替者数	切替率	軽減額／月(円)	通知件数	切替者数	切替率	軽減額／月(円)
平成21年度	11,264	2,874	25.5%	4,689,378				
平成22年度	4,746	946	19.9%	1,192,618				
平成23年度	6,713	1,540	22.9%	2,132,936	0	0	0.0%	0
平成24年度	7,392	1,664	22.5%	2,135,833	2,108	467	22.2%	589,198
平成25年度	10,781	2,376	22.0%	3,500,314	4,077	1,091	26.8%	2,114,437
平成26年度	12,405	3,072	24.8%	4,983,866	12,621	2,846	22.5%	4,313,831
平成27年度	13,032	3,306	25.4%	5,081,247	14,552	3,840	26.4%	5,874,640
平成28年度	22,402	5,371	24.0%	8,698,168	21,612	4,956	22.9%	7,315,993
平成29年度	25,676	6,469	25.2%	10,946,020	24,318	7,341	30.2%	13,303,434
平成30年度	26,151	6,369	24.4%	9,561,003	21,607	5,457	25.3%	8,914,090
令和元年度	26,268	6,755	25.7%	9,569,685	21,103	5,215	24.7%	8,745,110
累計	通知件数	切替者数	切替率	軽減額／年(円)	 約13.6億円の軽減効果			
	288,828	71,955	24.9%	1,363,941,599				

約13.6億円の軽減効果

協会けんぽ 全支部 の合計								
	一回目通知				二回目通知			
	通知件数	切替者数	切替率	軽減額／月(円)	通知件数	切替者数	切替率	軽減額／月(円)
平成21年度	1,452,132	380,301	26.2%	579,931,590				
平成22年度	549,570	118,287	21.5%	144,627,555				
平成23年度	843,704	196,588	23.3%	250,673,658	210,987	53,639	25.4%	77,866,831
平成24年度	968,426	243,394	25.1%	314,098,285	270,138	67,268	24.9%	88,979,433
平成25年度	1,347,831	323,936	24.0%	446,736,560	500,090	144,820	29.0%	252,125,791
平成26年度	1,656,764	464,207	28.0%	702,724,872	1,638,884	421,126	25.7%	611,618,980
平成27年度	1,806,296	506,796	28.1%	726,310,734	1,939,597	562,889	29.0%	843,769,158
平成28年度	3,071,331	777,828	25.3%	1,132,698,686	3,028,142	764,723	25.3%	1,117,094,152
平成29年度	3,579,162	981,835	27.4%	1,558,269,035	3,455,431	1,166,948	33.8%	2,072,603,571
平成30年度	3,714,412	1,008,670	27.2%	1,456,751,119	2,982,936	849,325	28.5%	1,291,867,049
令和元年度	3,565,539	1,009,589	28.3%	1,313,169,513	3,000,668	809,136	27.0%	1,276,904,517
累計	通知件数	切替者数	切替率	軽減額／年(円)	 約1,951億円の軽減効果			
	39,582,040	10,851,305	27.4%	195,105,853,072				

約1,951億円の軽減効果

○平成21年度から令和元年度2回目通知までの累計（人数はのべ人数）
○軽減額／年：軽減額（月）×12ヶ月（単純推計）
（協会けんぽ加入者データより）

協会けんぽでは、毎年2回（2月、8月）、ジェネリック医薬品に切り替えることで薬代の軽減額が一定以上見込まれる方、及び生活習慣病（高血圧症、糖尿病、高脂血症等）や慢性疾患（喘息、リウマチ等）などの先発医薬品を長期間服用されている方へ、ジェネリック医薬品への切り替えを案内する「ジェネリック医薬品軽減通知」を送付しており、これまでの軽減効果額は、上記表のとおりとなっています。

8. 医薬品別軽減可能額一覧【上位30品目】（協会けんぽ 令和2年10月診療分レセプトより）

項番	医薬品コード	商品名	剤形区分	医薬品区分	医療機関数	数量	薬剤費	軽減可能最小額	軽減可能最大額
1	620009048	ヒルドイドソフト軟膏0.3%	外用	0.先発	35,863	26,972,054	582,596,361	385,700,369	461,222,119
2	620009049	ヒルドイドローション0.3%	外用	0.先発	32,940	26,326,460	568,651,538	376,468,379	450,182,467
3	622538301	リリカOD錠75mg	内服	0.先発	24,319	5,160,151	561,424,464	374,110,971	374,110,971
4	620002511	グリベック錠100mg	内服	0.先発	674	158,299	350,219,601	222,314,413	293,928,655
5	613990096	プログラフカプセル1mg	内服	0.先発	3,958	873,708	541,349,229	235,376,827	286,488,722
6	621950801	シムピコートタービュヘイラー60吸入	外用	0.先発	22,979	106,460	452,666,971	225,279,534	225,279,534
7	622538201	リリカOD錠25mg	内服	0.先発	21,441	5,111,119	333,244,946	221,822,556	221,822,556
8	620004355	バラクルード錠0.5mg	内服	0.先発	2,921	288,845	228,331,973	154,647,613	179,372,745
9	610432045	セルセプトカプセル250 250mg	内服	0.先発	3,700	1,467,866	319,701,167	179,079,625	179,079,625
10	620002492	トラクリア錠62.5mg	内服	0.先発	491	61,863	238,848,664	163,418,537	173,366,183
11	622484401	モンテルカスト錠10mg「KM」	内服	1.後発	19,741	3,932,769	282,766,077	-	168,322,505
12	620007804	モーラステープL40mg 10cm×14cm	外用	0.先発	40,591	8,704,222	303,777,348	154,935,152	154,935,152
13	620004641	アルツディス関節注25mg 1%2.5mL	注射	0.先発	8,845	238,450	230,819,987	134,009,125	154,515,859
14	620004868	ゼチーア錠10mg	内服	0.先発	14,967	1,308,450	226,623,497	144,060,317	144,060,317
15	622042602	エディロールカプセル0.75μg	内服	0.先発	18,689	2,026,344	198,986,932	127,457,006	127,457,006
16	621932301	エルプラット点滴静注液100mg 20mL	注射	0.先発	544	3,833	148,326,951	67,675,729	109,864,291
17	621983801	リリカカプセル75mg	内服	0.先発	11,494	1,481,096	161,143,271	107,379,477	107,379,477
18	613130595	メチコパール錠500μg 0.5mg	内服	1.後発	31,450	11,574,909	170,151,162	-	104,174,181
19	622545101	ジエノゲスト錠1mg「モチダ」	内服	1.後発	6,186	2,174,522	277,251,555	-	102,202,534
20	620007813	ロキソニンテープ100mg 10cm×14cm	外用	0.先発	34,634	7,103,930	221,642,600	95,192,655	100,165,406
21	620004857	セレコックス錠100mg	内服	0.先発	14,084	1,982,399	136,785,497	97,930,486	97,930,486
22	620002477	クレストール錠2.5mg	内服	0.先発	18,213	2,360,017	124,608,871	80,240,561	97,704,683
23	622036701	ザイザル錠5mg	内服	0.先発	20,681	1,943,506	160,339,237	96,203,542	96,203,542
24	620009046	ヒルドイドクリーム0.3%	外用	0.先発	11,749	5,517,201	119,171,543	78,895,975	94,344,138
25	620006886	キプレスチュアブル錠5mg	内服	0.先発	7,201	759,434	118,623,591	81,942,929	94,245,759
26	610443040	アレグラ錠60mg	内服	0.先発	18,305	2,480,377	130,219,768	61,017,263	92,270,007
27	610412202	バリエット錠10mg	内服	0.先発	12,931	1,208,237	104,029,163	48,087,813	86,751,381
28	622452901	オルメテックOD錠20mg	内服	0.先発	9,499	1,021,590	97,561,821	62,929,929	75,495,483
29	610443014	リビトール錠10mg	内服	0.先発	12,908	1,207,874	97,958,602	43,362,686	74,525,841
30	621969902	アサコール錠400mg	内服	0.先発	3,920	2,187,772	141,767,626	73,509,139	73,509,139

注1
評価対象データは、令和2年10月診療分の医科外来レセプト、医科入院（DPCの包括評価対象部分除く）、調剤レセプトを対象とする。

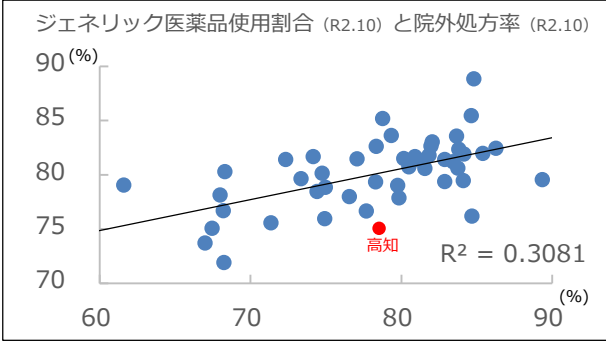
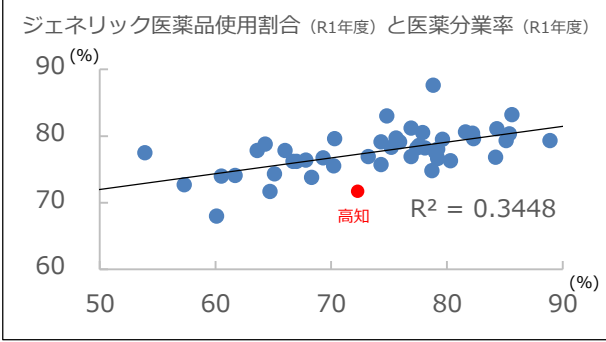
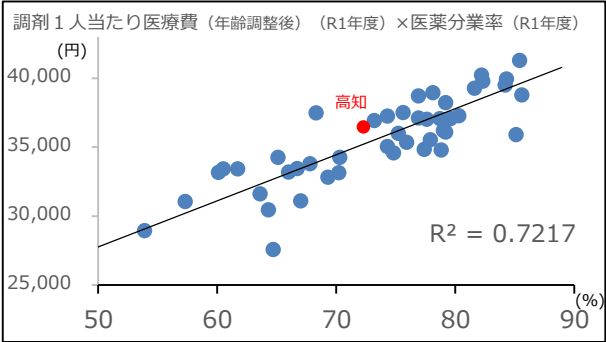
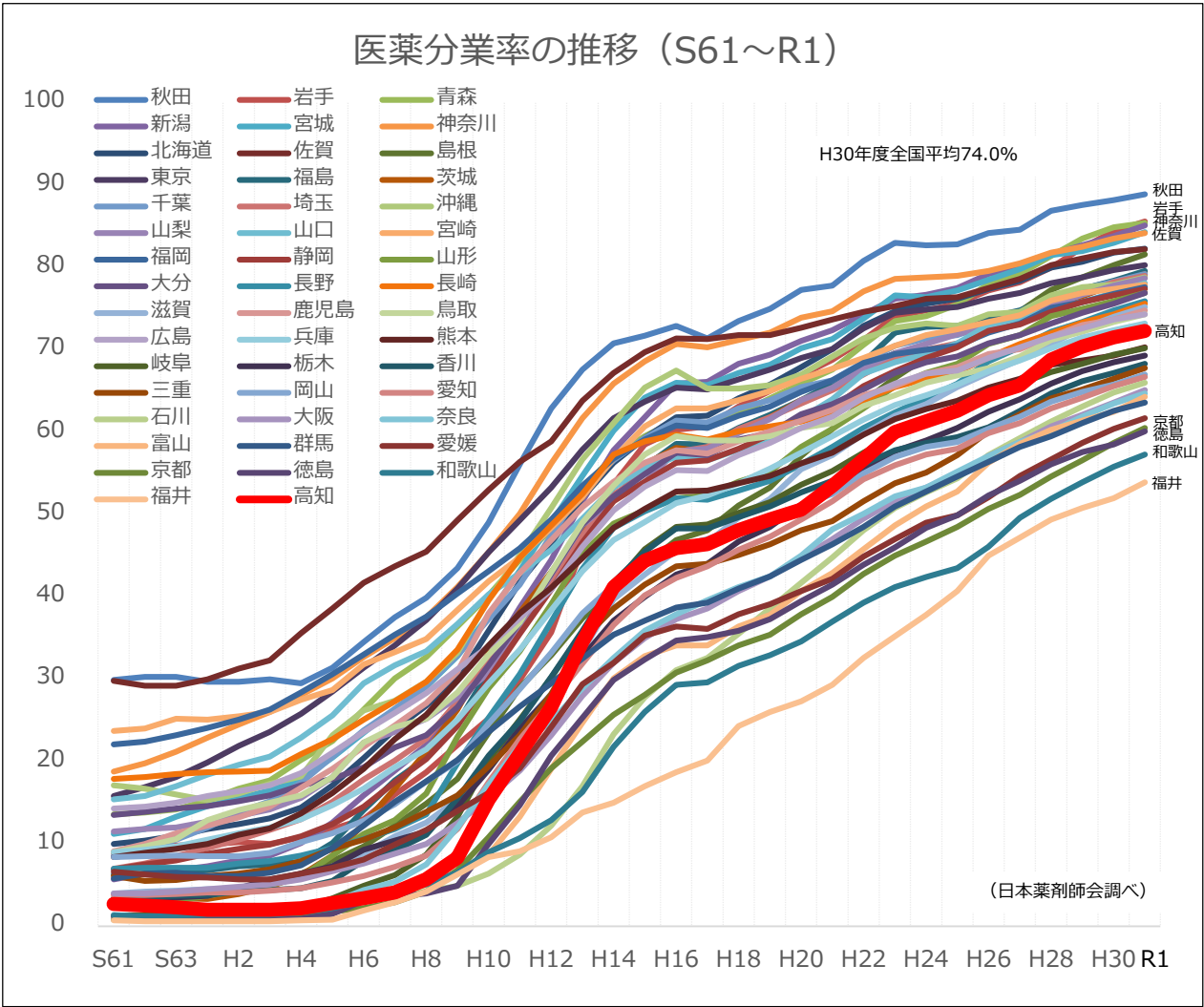
注2
医療機関数は、処方実績がある保険医療機関数と保険薬局数の合計とする。

注3
軽減可能最大額は最安値の後発品より算出し、軽減可能最小額は最高値の後発品より算出する。ただし、後発品の軽減可能最小額は0とする。

（協会けんぽ加入者データより）

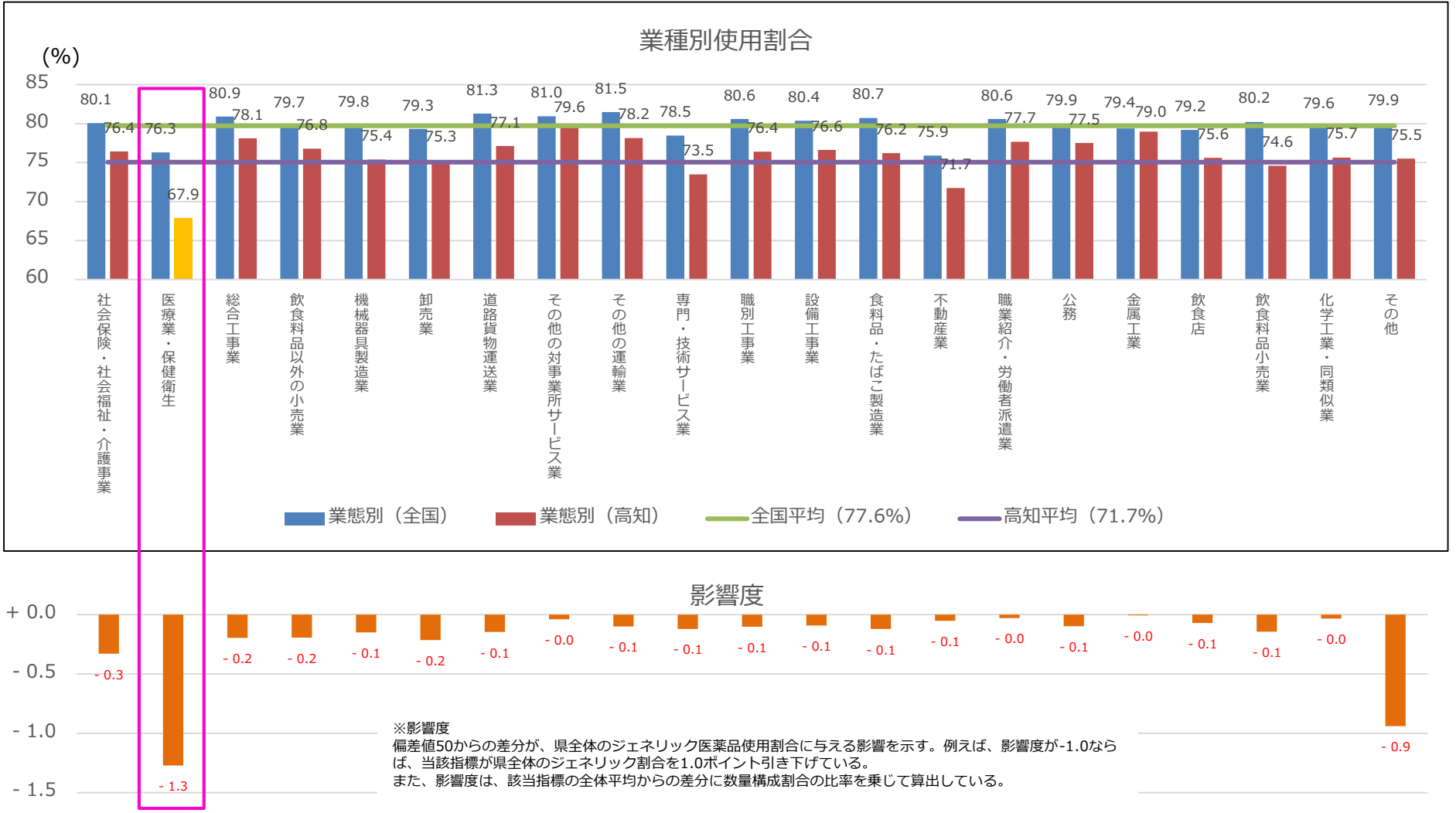
全体18,851品目の軽減可能額の合計は、**約107億円／月（最小）～ 約153億円／月（最大）**。
うち、上位30品目の軽減可能額の合計は、**約41億円／月（最小）～ 50億円／月（最大）** 全体の約1／3。

9. 医薬分業率について（協会けんぽ加入者データ及び日本薬剤師会HPデータより）



- ① 医薬分業率と調剤薬局での一人当たり医療費は、かなり強い正の相関がある。
- ② 医薬分業率とジェネリック医薬品使用割合は、弱い正の相関がある。
- ③ ジェネリック医薬品使用割合と院外処方率は、弱い正の相関がある。

10. ジェネリック医薬品の業種別使用割合について（令和2年10月診療分）



（協会けんぽ加入者データより）

業種別使用割合を比較すると「医療業・保健衛生」のジェネリック医薬品使用割合が低いが、高知県は特に低い傾向があり、全体への影響度も大きい。